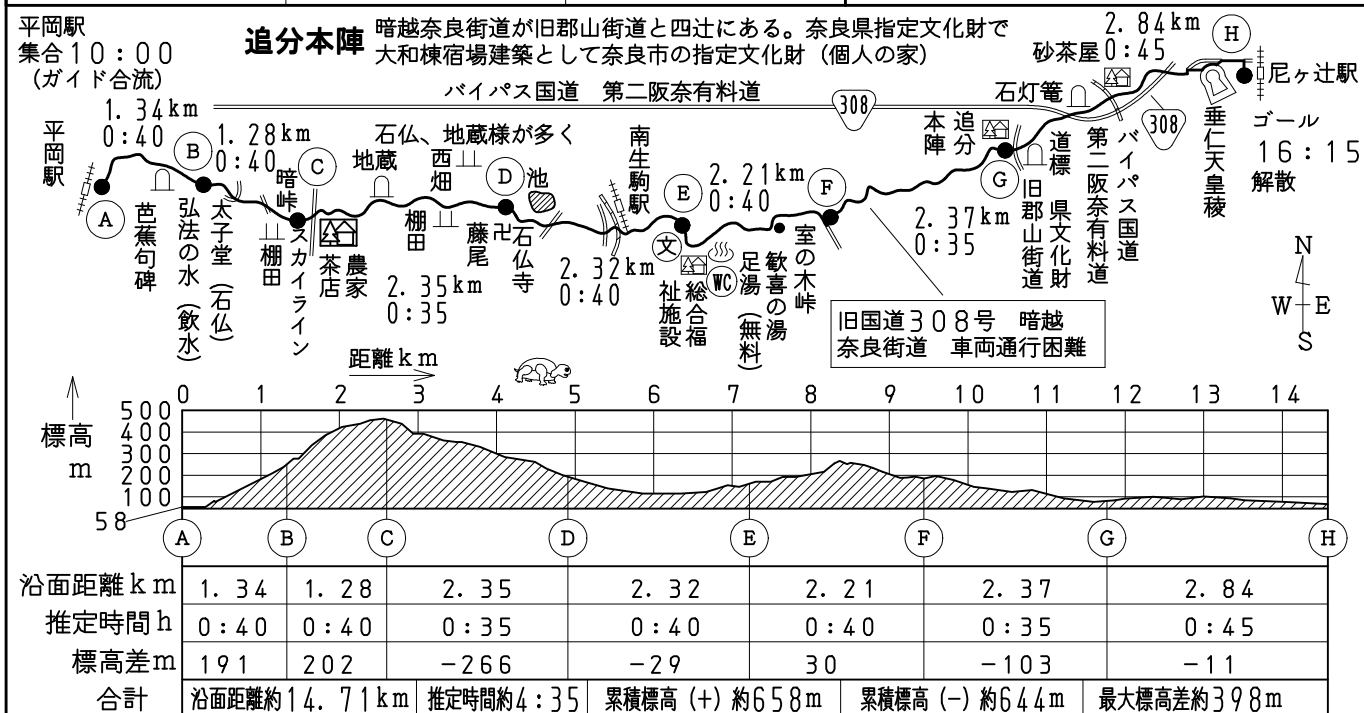


NO	IS02	級	ハイク中	東京・名古屋・大阪からのアクセスは パンフレットを参照下さい	
着型 企画	「神意に叶う道」伊勢本街道分割完歩159km12日 02平岡駅から暗越え奈良街道・尼ヶ辻駅			宿泊の問い合わせ 奈良市観光協会 TEL. 0742-27-8866	
歩行距離	14.71km	歩行時間	4時間35分	休憩探勝	70分
予備時間	30分	全行程	6時間15分	最大標高差	398m



### 奈良盆地 幻の巨大道路

推古天皇(女性初の天皇)で聖徳太子(574-622年)摂政の時代、中国の技術や制度を学ぶため600年から18年間に5回以上遣隋使を派遣した。中国の道路建設の影響を受け、655年ごろ奈良盆地に幅員24-42mで直線的な道路が東西南北に数本建設されていたことが近年の発掘調査や研究で判明した。巨大な道は8世紀末の平安時代初頭の行政改革で衰退し11世紀初頭に廃絶したとの記事がある。

### 暗越え奈良街道(くらがりごえならかいどう)

大坂難波から生駒山地の暗峠を越え奈良市平城京に至る街道で現在の国道308号線。玉造出発の伊勢本街道は平岡で街道に合流し。ゴールまで暗越え奈良街道を歩く。暗峠付近は20軒の茶店と旅籠があったが、現在では民家が数軒のみ。石畳と道標、棚田が残る当時の風情をしのぶ。近鉄奈良線や阪奈道路、第二阪奈有料道路ができてかかってのにぎわいはないが、歴史探訪のハイキングコースとして人気が高い。「え!。これでも国道ですか?。」とビックリする道が延々と続きます。1986年「日本の道百選」選定。

### 垂仁天皇陵(全長227mの巨大前方後円墳)

第11代天皇(紀元前29年~。皇紀632年)。父親は崇神天皇、母は御間城姫命。都は桜井市穴師周辺に比定。陵(みささぎ)は宮内庁により奈良市尼ヶ辻西町にある菅原伏見東陵に治定。

### 松尾芭蕉

寛永21年(1644) - 元禄7年(1694) 10月12日

三重県伊賀市出身。幼名は金作。通称は籬七郎、忠右衛門、甚七郎。名は宗房。俳号は実名宗房から桃青、1682年芭蕉と改めた。蕉風と呼ばれる芸術性の極めて高い句風を確立して日本史上最大の俳諧師のひとりといわれる。1689年(元禄2年3月27日)に弟子を連れ、約2400kmにおよぶ「奥の細道」の旅に出発。江戸から東北象潟(きさかた)を北限とし、北陸道を南下して敦賀経由で1689年8月21日終点大垣到着。江戸に帰らず伊賀上野に帰郷。1691年6月25日から9月28日まで新装された義仲寺の無名庵(木曾義仲戦死後、巴御前が結んだ草庵といわれる)に宿泊。8月15日、義仲寺で「中秋の名月を見る会」を開き、10月29日2年ぶりに江戸に帰着。

### 芭蕉最後の旅

1694年4月「おくのほそ道」完成後、5月11日帰郷で江戸を出発。5月28日伊賀上野に帰る。6月15日から7月5日まで義仲寺無名庵に泊まる。9月8日大坂に向け出発するが発熱。9月9日(菊の節句)大坂への旅窓の途中暗越えで名句を詠んだ。その後、9月21日病状悪化し下痢が続く。10月12日に旅の途中大坂御堂筋の旅籠「花屋仁左衛門」で深夜2時ごろ看病中の吞舟に辞世の句「枯野」を代筆させ、「亡骸は義仲寺に・・・」との遺言を残し午後4時に客死した。51歳。粟津(大津市)の義仲寺を好んで何度も宿をとっていた芭蕉は遺言どおり大津市の義仲寺(ぎちゅうじ)に木曾義仲とともに永眠。与謝蕪村の松尾芭蕉像では、スラッとした細身の体型で極めて健脚。職業は俳諧師、ジャンル:俳句。

最後の句

辞世の句「枯野」

「菊の香に くらがり登る 節句かな」

「旅に病んで 夢は枯野を かけ廻る」

作成:上郡